

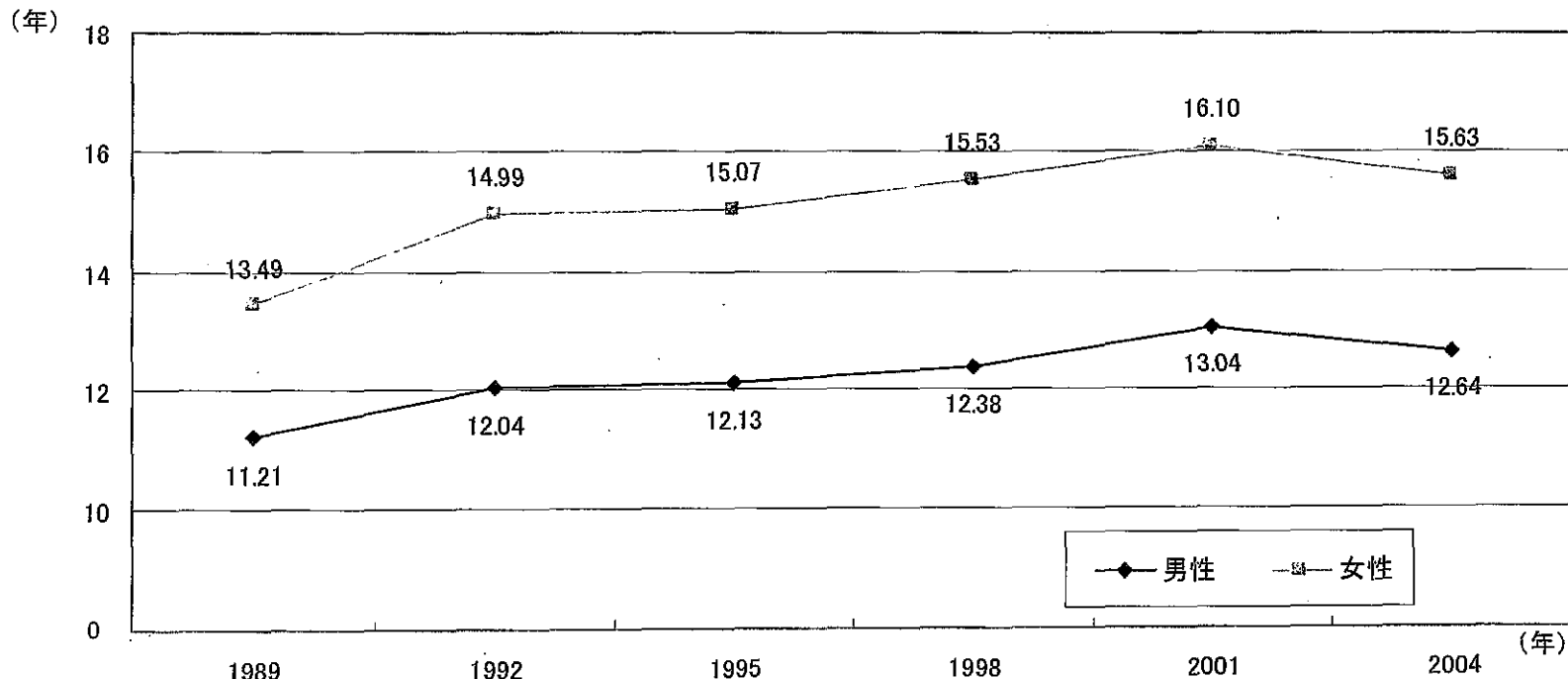
(11) 我が国の健康寿命^(※1)の推移

○例えば、2004年の男性の65歳時点での無障害平均余命は12.6年であり、60歳を過ぎてなお18年程度健康に活動できる期間が残されていることになる。

○現在の高齢者は「老後をどう過ごすか」ではなく、「第二の人生をどう生きるか」という問題に向き合っていると見える。

※1「健康寿命」は、平均寿命から障害期間を差し引いて算出するが、障害期間の差し引き方によって、「障害調整平均余命(DALE: Disability Adjusted Life Expectancy)」と「無障害平均余命(DFLE: Disease free life expectancy)」に大別されるが、さらに健康状態をどのように捉えるかにより解釈が多数に分かれている。

○65歳時点での無障害平均余命^(※2)の推移

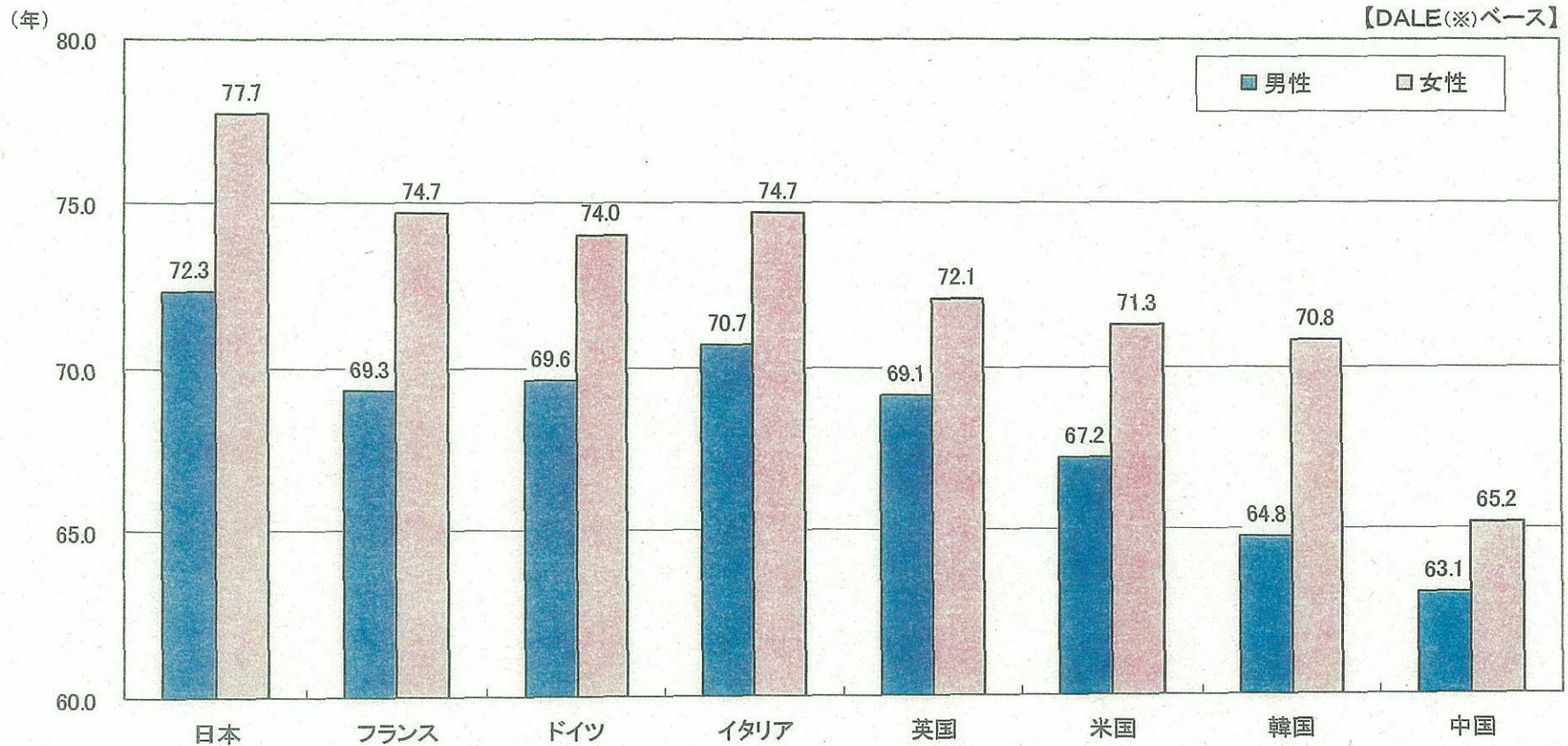


備考: 厚生労働省「簡易生命表」、「国民生活基礎調査」、総務省「人口推計」などから試算

※2「無障害平均余命(DFLE: Disease free life expectancy)」とは、健康上日常生活に影響がないとされる者を「無障害余命者」とし、通常の平均余命の考え方に則って、無障害である期間の平均を計算したもの。

注) 本資料は内閣府「平成18年版国民生活白書」を参照して厚生労働省政策統括官付社会保障担当参事官室において作成したもの。

(参考)健康寿命の国際比較



資料:WHO「The World Health Report 2004」

※ 国際比較を行うため、WHOが算出した「障害調整平均余命(DALE:Disability Adjusted Life Expectancy)」ベースの健康寿命を使用している。
なお、WHOによる健康寿命の試算は、2002年のデータ以降更新されていない。